

令和3年度 第2回学術研修会

日時 : 令和3年7月14日(水) 午後8時～

場所 : 板橋区歯科医師会 3階 大会議室

演題 : 「口腔がん検診は有効か？」

講師 : 東京歯科大学 千葉歯科医療センター

名誉教授 柴原孝彦先生

※受講対象 : 歯科医療関係者(歯科医師とそのスタッフ)のみ

※受講料(資料代) : 板橋区歯科医師会会員 無料

非会員 1名につき5,000円

【抄録】

2020年度の新たながん罹患者数は推計で88万人に達しています(国立がん研究センターの最新統計から)。この値はなんと35年前の約4倍を示しています。さて、口腔がん罹患者はどうでしょうか？口腔がんも30年前と比較すると約4倍以上の増加していることをご存知でしょうか？厚労省の「がん対策推進基本法」で「希少がん」の一つとして漸く挙げられましたが、まだまだ認知度の低い注目されない病態です。わが国では胃癌の1/10で、全がんの12番目の罹患ランキングとなりますが、口腔という特殊性から「希少」と言って侮れない理由が3つあります。まずは前述の罹患率の増加。これは世界的傾向でもあるように口腔がんは増加し、女性・若年化しています。罹患数の増加と併せて死亡者数も増えていますが、残念ながらその対策は示されていません。この現象は、先進諸国で唯一日本だけのもの、「口腔がん後進国」となっています。2つ目は低い治癒率。5年生存率は全国平均で約60%、これは全がんの5年生存率の中で20番目という悪い結果です。理由として、病理組織学的難治性ではなく、臨床的に発見が遅く進行した状態で専門機関に受診することが多いためです。3つ目は低い認知度。口腔にがんができることを知らない国民が多く、医療側でもめったに遭遇しない特殊なものと考え疎んじている点が挙げられます。口腔がん発見の大半は、直接口腔内を診察する歯科医師によって行われています。しかし、全国9.5万人、約7万診療所の歯科医師のすべてが口腔がんを強く意識しているわけではありません。気付くのが遅れ進行したり、ハイリスク群を見抜けず放置されたり、悲惨な症例が散見されます。口腔がんの予防と早期発見は、歯科医師によるほんの僅かな知識と診察力がカギとなります。わが国の口腔がんによる死亡者数を減らし、治癒へ向かわせる切り札は、一般開業の歯科医師の診断力に掛かっているといっても決して過言ではありません。まさしく先生方は口腔がん早期発見のGate Keeperです。今回の講演では「口腔がん検診」を理論的に紐解き、今までの実績と科学的根拠を持ってその有効性を解説いたします。

【略歴】

昭和54年3月 東京歯科大学卒業

昭和59年6月 東京歯科大学大学院歯学研究科(口腔外科学専攻)修了

昭和59年12月 東京歯科大学口腔外科学第一講座 助手

昭和61年7月 国立東京第二病院歯科口腔外科に出向

平成元年8月 東京歯科大学口腔外科学第一講座 講師

平成5年6月 学命によりドイツハノーバー医科大学に留学

平成12年6月 東京歯科大学口腔外科学第一講座 助教授

平成16年8月 東京歯科大学口腔外科学第一講座 主任教授

平成22年6月 東京歯科大学千葉病院副院長(現、千葉歯科医療センター)

令和元年6月 東京歯科大学口腔がんセンター長(平成24-25年、令和2年)

令和2年4月 東京歯科大学 名誉教授

【所属学会】

日本口腔外科学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔腫瘍学会、日本有病者歯科医療学会、日本口腔科学会、日本老年歯科医学会、日本小児口腔外科学会、日本顎顔面外科学会、日本癌学会、日本癌治療学会など。

【著書】

口腔顎顔面外科学, 医歯薬出版, 東京, 2000. 標準口腔外科学, 医学書院, 東京, 2004. カラーアトラス コンサイス口腔外科学, 学建書院, 東京, 2007. 口腔がん検診 どうするの、どう診るの, クインテッセンス出版, 東京, 2007. 衛生士のための看護学大意 医歯薬出版, 東京, 2012. かかりつけ歯科医からはじめる口腔がん検診 step1/2/3, 医歯薬出版, 2013. エナメル上皮腫の診療ガイドライン, 学術社, 東京, 2015. 薬剤・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死 MRONJ・BRONJ, クインテッセンス出版, 東京, 2016. 知っておきたい舌がん, 扶桑社, 東京, 2019. 口腔がんについて患者さんに説明するときに使える本, 医歯薬出版, 東京, 2020. など